
あなたの隣で

宝玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたの隣で

【Nコード】

N3231G

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

狂った愛の形をとることしか相手を愛せない。いや、むしろ愛を知らない。そんな少女の愛の物語

愛って、何だろう。

最近そればかり考えこんでいる。ただ純粹に好き、というだけが愛って言うのだろうか。じゃあ、私が与えているのは愛じゃないのだろうか。

私が愛しているのは、ただただ平凡な同級生。ずば抜けて何かが出来るわけじゃないし、俗に言うチャラ男ってやつでもない。

何でこんなやつが好きなのかと聞かれたら、答えられない。黙り込んでしまっだろう。

欲しかった。

彼は、何のとりえも無い私を好きだと言ってくれた。

幼い頃から誰にも好かれなかった、この私のことを、好きだと。

嬉しかった。初めてだった、人に好かれることが出来たのは。だから、私もこの人を愛そうと思った。でも、愛されたことが無いから愛し方がわからない。

とりあえず、私だけのものにしたいくて、監禁した。

誰にも触れられないように、私の部屋に。

鎖で手を拘束したら、ちょっと可哀想かな、と思ってそれだけはやめた。だって、愛する人には傷ついて欲しくないもの。初めてマシなこと言えたと思った。

その夜、彼が逃げ出そうとドアを叩いていた。それは五月蠅くて、不覚にも煩わしいなんて単語が出てきてしまった。……ああ、ゴメンね？

「出してくれ……琉亜^{るあ}」

ああ、遅くなったけれど私は琉亜で、彼は魁斗^{かいと}さん。

「どうして？」

笑って見せると、魁斗さんは背筋を震わせた。そんなに、怯えなくても良いのに。

「……こんなの、間違ってる」

「私が——間違っている？」

一気に私の顔から笑顔が消えていくのがわかった。ここまで自分を拒否されて、黙っていられるわけが無い。いくら、魁斗さんでも「もっと普通に、愛せないのかよ……ッ！俺は、こんなの望んでない！」

「魁斗さん」

「琉亜……俺はお前が好きだよ」

「魁斗さんっ」

「もっと、一般的に！」

「——魁斗さん！」

嗚呼、五月蠅いな。これ以上言っと、どうなるかわからないよ？

「普通って、どんなこと？ 一般的って、なに」

表情と言う表情が消え、何の意味もなさない顔で問い掛けた。

「世の中には、歪な形の愛もあるのよ。……最も、私はこれが歪んでいるとは思わないけれど」

見下すように、馬鹿にしたように笑う。薄く、本当に薄く。口元に笑いを浮かべた。

常識に囚われたこの人が可笑しくて、大声で笑いそうになる。

「あ……う、うああ、」

魁斗さんは頭を抱えて座り込んでしまった。……なんか、面白い。

「くく……あ、あは、あははははははははあ！」

もう何がなんだかわからなくなってきた。私は本当に、この人を愛してるのだろうか。

そもそも愛って何だったんだろう。私にはわからない。たとえ傷つけたとしても、愛していれば愛なのかな。でも、愛するってなに。嗚呼、ワカラナイ。

「琉亜、別れよう？ ウマが合わないだろ、愛し方も。そのほうが、二人のためにもなる」

「――？」

魁斗が何を言っているのかわからなかった。なんで、だろう。私はこんなにも好きだったのに！

……ん？ 好き、だった？

なんだ、解決じゃない！ 好きなのは、過去のあなた。今の、私に反抗的な魁斗さんじゃない。だから、愛する必要はもう無い。

「ゴメンね、自分の気持ちに気づいた。でもね、私を愛してくれたのは初めてだった。すごく、嬉しかった。ありがとう。だからね」

そこで一旦言葉を切った。決心がつかなかったから。

「この、幸せな状態のまま殺してもらいたいの」

一瞬、時が止まった気がした。

この、魁斗さんの驚いた顔。たまらない。

「ど、どういうことだよ、琉亜！ 俺、は――」

「あなたの意見なんて聞いていない。私を、殺して？」
本当は、一緒に死にたかったけれど。

口からはみ出しそうな言葉を押さえて、必死に笑った顔を作った。
ううん、作ったはずだった。

「泣くなよ、琉亜」

魁斗さんの震えた、でも優しい声。私が今言った言葉を、撤回してしまいそうだった。

「ねえ、魁斗さん。私、泣いているの？」

「ああ、泣いてるよ。さっきから、お前が私を殺してって言ったときからだ」

「ごめ、なさい。嫌い、になった？」

「——ああ、なった。だからさ、もう一回好きになってやるよ」
優しいね、温かいね魁斗さん。
手も、心も、ぬくもりも。

今だけ。泣いて、甘えてもいいですか——？

「つく、う……あああああ！」

今日は泣きます。思い切り、心の底から。

明日、あなたの隣で笑っていられるように——。

（後書き）

ありがとうございました。

復帰作として作りました。でも・・・うん・・・って感じですよ
ね？ お恥ずかしいです。

本当に狂わせることは出来ませんでした。限界が・・・なので！
せつかなので心をこめて書けばいいと思いました。

ま、まあとにかく。御一読ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3231g/>

あなたの隣で

2010年10月15日09時14分発行